



令和2年4月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

【研究成果】シミュレーションによりマダイの適正な種苗放流尾数を検討

静岡県では、栽培漁業により毎年100万尾前後のマダイ稚魚が放流されています。継続的な放流の結果、マダイの漁獲量は回復し、安定しています。

資源が回復したマダイでは、放流尾数の適正化が求められています。そこで、20年以上にわたり蓄積されてきた漁獲データを解析し、どの程度放流し、どの程度漁獲していけば、資源を維持できるか、将来の資源量をシミュレートしてみました。

その結果、近年は資源が増加しているため、放流尾数を多少減らした場合でも資源が維持できると試算されました（右図参照）。また、大きく放流尾数を減らした場合には、漁獲可能サイズを現在の17cmから引き上げる等の取り組みが必要であると試算されました。

解説：栽培漁業：生残が悪い卵から稚魚までの間を人の手で育てたのちに、自然界へ放流し、生長したものを漁獲する。



↑放流されるマダイ稚魚（約60mm）

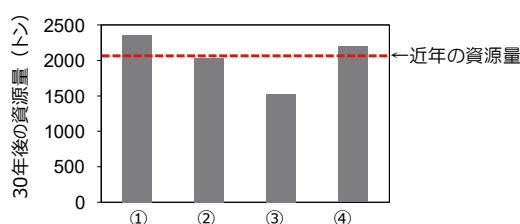


図 30年後の資源量のシミュレート結果

- ① 放流尾数：現状維持
- ② 放流尾数：2割削減
- ③ 放流尾数：5割削減
- ④ 放流尾数：5割削減、漁獲可能サイズ：24cm

初島沖でキンメダイ標識放流

伊豆東部一本釣協議会では、キンメダイ資源保護のために標識放流を行っています。3月17日に伊東、川奈、富戸地区から4隻が出航して、初島沖漁場で52尾に標識をつけて放流しました。漁場での操業を自粛した場合には、キンメダイがどこに移動するのか等を調査するため、今後も引き続き標識放流を行っていく予定です。



解説：伊豆東部一本釣協議会は、伊東・熱海地区の一本釣漁業者組織で、伊豆半島東岸の漁場で資源管理を行っています

テングサ作柄調査実施中

今年度のテングサ作柄調査が3月5日の白浜地区から始まりました。調査は現在も実施中です。潜水により、1㎡の枠取りと目視観察を行い、漁場内のテングサ着生状況を調査します。今年度は、伊豆地域12地区の合計31カ所で調査を実施する予定です。

既に調査が終了した伊豆東岸の調査地点では、昨年度と同程度の着生が確認されています。今年度の作柄予察は全地区の調査が終了した後、5月中旬頃までにお知らせする予定です。



解説：テングサの利用：ところてんや寒天の原料で、テングサを煮出した液を固めたのがところてん、ところてんを脱水し乾燥させたものが寒天になる。

4月の予定 ●熱海地区でヒラメの中間育成が始まります。 ●今年のアワビ放流が順次行われます。 ●今年为天草作柄を予測するため、潜水調査を引き続き行います。

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。